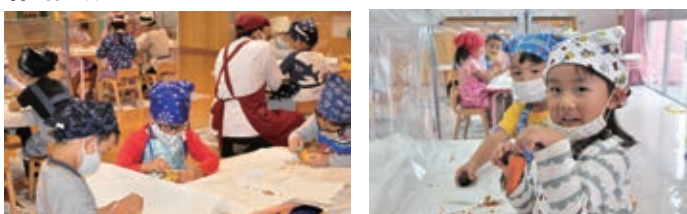


ちやんと かわら版 千歳



自分たちで育てた野菜を使って カレーライス作りに挑戦



アリス認定こども園(藤森紫乃園長)の3歳〜5歳の園児83人が10月2日、春から自分たちで育てた野菜を使い、大好きなカレーライス作りを行いました。当日は、クラスごとに作業を分担し、野菜の洗浄から皮むき、切る作業までを実施。野菜を育てることの大切さや喜びを調理を通じて学びました。

野菜の皮むきは、3歳児クラスがニンジン、4歳児クラスがジャガイモを担当。安全のためペックトボトルのキャップを使って皮をむきました。5歳児クラスは、タマネギの皮むきに加え、洗米から炊飯までを体験。コメは、野菜と一緒に園児たちが作ったもので、収穫した稲を脱穀し、すり鉢で玄米にしたものを使用しました。

人参の皮むきに挑戦した3歳児クラスの中島衣千佳(いちか)ちゃんは「きれいにむけたよ。早く食べたーい」と待ちきれない様子でした。野菜の皮むきを終えた後は、5歳児クラスが包丁を使って野菜をカット。タマネギは、涙をこらえながら頑張っていました。

切り終えた野菜は、調理員が美味しく料理し、昼食に園児全員で完食。最後にみんなで「ごちそうさまでした!」と挨拶をして終了しました。

(編集部 浅野)



10月31日に苫小牧市で開幕を迎える北海道学童軟式野球都市対抗戦「EZO CITY THE BATTLE 2020」への出場を目指す千歳選抜チーム(荒川拓也代表)。

大会への出場権をかけて熱闘を繰り広げます。昨年の全国大会では、北海道代表の苫小牧選抜チームが、道勢初となる悲願の優勝を果たしました。今年度は、予選開催地

大田政一(監督)の練習試合が10月18日、千歳市青葉少年野球場で行われました。

この大会は、都市対抗戦運営委員会が主催。小学6年生のみで構成する市または地域の代表選抜チームが、兵庫県淡路島で2月に開催される全国大会への出場権をかけて熱闘を繰り広げます。昨年の全国大会では、北海道代表の苫小牧選抜チームが、道勢初となる悲願の優勝を果たしました。今年度は、予選開催地

少年野球千歳選抜チーム 全カプレーで目指せ全国大会!



(編集部 浅野)

があることをたくさんの方に知ってもらいたい。そして、千歳選抜の赤いユニフォームを着てプレイしたい!と球児たちの憧れや夢の1つになってくれれば嬉しい!と思いを語りました。

(編集部 浅野)



千歳市立祝梅小学校(橋本由美校長)で10月8日、講師を招いてアイヌ文化学習が行われました。授業には6年生41人が参加し、「アイヌとサケ」について生活の知恵や食文化などを学びました。

当日は、千歳アイヌ文化伝承保存会の平井史郎副会長が進行役を、同保存会の佐々木翔太さんと上野亜由美さんが講師を務め授業を進めました。

前半は、アイヌ民族がサケをどのように活用していたのかを中心に学習。サケを乾燥させて保存していたことや、舟で中国へ渡りお金の代わりにサケと物品を交換していたことなどを学びました。食文化については、上野さん手作りのサケを使った料理の試食を交え

アイヌとサケを学ぶ体験授業

千歳市立祝梅小学校(橋本由美校長)で10月8日、講師を招いてアイヌ文化学習が行われました。授業には6年生41人が参加し、「アイヌとサケ」について生活の知恵や食文化などを学びました。

当日は、千歳アイヌ文化伝承保存会の平井史郎副会長が進行役を、同保存会の佐々木翔太さんと上野亜由美さんが講師を務め授業を進めました。

前半は、アイヌ民族がサケをどのように活用していたのかを中心に学習。サケを乾燥させて保存していたことや、舟で中国へ渡りお金の代わりにサケと物品を交換していたことなどを学びました。食文化については、上野さん手作りのサケを使った料理の試食を交え

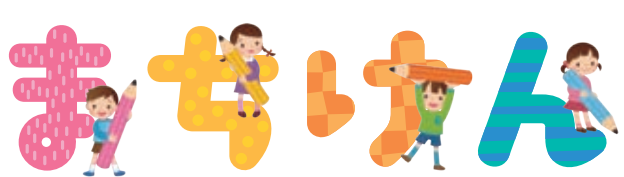
休憩をはさみ授業後半は、サケの解体と皮はぎを体験。さばかれる様子を見ながら体の構造や内部を観察し、木製の皮はぎ棒でサケの皮をはぐ作業を体験しました。

皮はぎに挑戦した佐藤銀(ぎん)君(写真上)は「最初はむずかしかったけどすぐにコツがつかめました。アイヌの人たちにはこんなに便利な道具が昔からあるとは思いませんでした」と話していました。

(編集部 浅野)



ちとせ・まち
魅力検定
2020
マスター編



解答は
21ページ

ちとせ・まち魅力検定のマスター編は、基礎編・応用編Ⅰ・Ⅱ・Ⅲの4分野を合格された方が受検できる最高難度の検定問題で、ちとせのものしり博士と言えるでしょう! 検定の出題範囲は、要覧ちとせ、公式ガイドブック応用編Ⅰ〜Ⅲからです。これまでに5回の検定試験に7名が合格しています。皆さんも超難問に挑戦してみませんか!

問合せ ちとせ・まち魅力検定実行委員会事務局 ☎080-2865-0864

次の文を読んで問いに答えなさい。

泉沢地域は、昭和6年に(1)が市民に薪や炭を提供することを目的に約634ヘクタールの山林を買収しましたが、事業は失敗し、長年放置されていました。それが、昭和45年になると民間業者から買収の話があり、千歳市は、当時開発が進められていた(2)大規模工業団地の従業員を収容する住宅団地造成を目的にこの土地を購入しました。

その後、昭和48年のオイルショックにより、先の大規模工業団地開発の見通しが立たなくなったため、千歳市は方針転換し、昭和52年に①泉沢の東側を工業団地、西側を住宅団地とする(3)型の開発を行う計画を完成させました。

昭和63年には、泉沢向陽台の自然と調和したまちづくりの開発姿勢が評価され、北海道新聞社などが実施する「(4)100選」に選ばれました。

- 問題1 (1)～(4)にあてはまるものを書きなさい。
- 問題2 下線①の工業団地の名称を書きなさい。
- 問題3 泉沢向陽台地域にあり、平成29年に4年制大学に移行した学校の現在の名称を16文字で書きなさい。